

投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 谷口 徳男 (企画整備班主幹 奥宮 英治)	内線	4408 (4437)
事業種目	河川事業	水系名	加古川水系		

事業目的

加古川水系（下流圏域）では、平成16(2004)年11月に策定された河川整備計画に基づき、計画的に河川改修事業を実施し、地域住民の安全・安心を確保する。

加古川下流圏域河川整備計画における「計画的に整備を進める区間」

支川	事業の状況	前回評価年度
① 別府川	戦後最大の昭和58年台風第10号と同規模の洪水に対し、上流曇川からの流入量を考慮し、床上浸水を解消〔日岡駅：30m <sup>3</sup> /s〕	H26 (2014)
② 水田川	戦後最大の平成2年9月豪雨と同規模の洪水を安全に流下〔山陽新幹線：50m <sup>3</sup> /s〕	
③ 草谷川	戦後最大の昭和58年台風第10号と同規模の洪水を安全に流下〔上西条橋：190m <sup>3</sup> /s〕	
④ 曇川	戦後最大の昭和58年台風第10号と同規模の洪水を安全に流下〔高田橋：110m <sup>3</sup> /s〕	

加古川水系加古川下流圏域河川整備計画 全体位置図

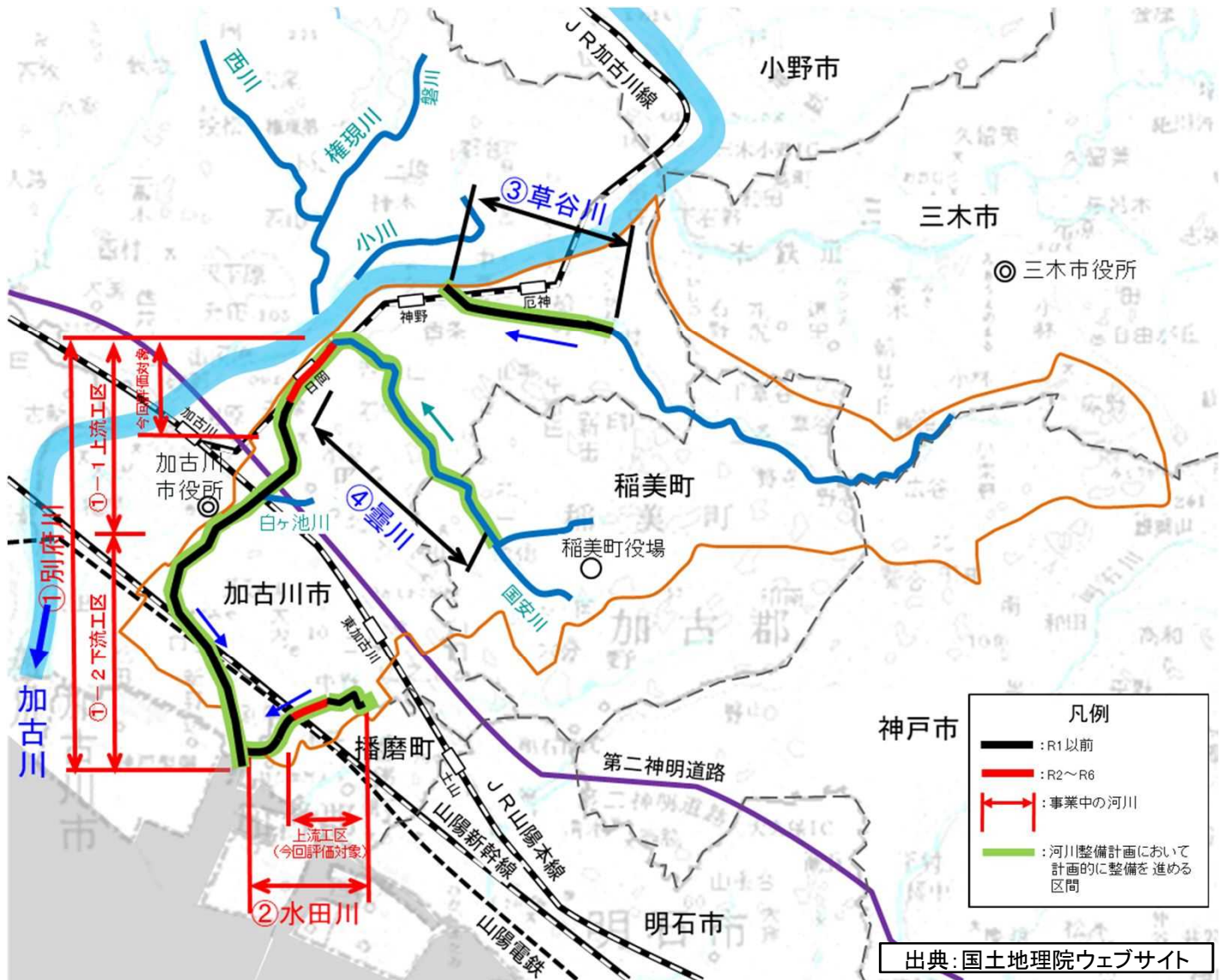


事業概要および進捗状況				今回評価内容 ( ) : 前回評価時点			
工区	事業区間	整備内容	評価対象区間の事業費	残事業費	進捗率	完成予定年度	
			内用地補償費	内用地補償費	内用補進捗率		
加古川水系	①-1 別府川（上流工区） [広域河川改修事業] [住宅市街地基礎整備事業]	加古川市 加古川町美乃利 ～神野町西之山	河道改修1.27km 排水機場改築 JR橋梁架替	81億円 (81億円)	9億円 (29億円)	89% (64%)	R4 (R4)
				2.0億円 (2.0億円)	0.1億円 (1.5億円)	95% (25%)	
	①-2 別府川（下流工区） [広域河川改修事業]	加古川市 別府町西脇 ～野口町良野	河床掘削 44,000m <sup>3</sup>	17億円 (20億円)	0億円 (20億円)	100% (0%)	R1 完了 (R4)
				— (—)	— (—)	— (—)	
②水田川（上流工区） [広域河川改修事業]	加古郡播磨町 北本荘～加古川市平岡町中野	河道改修0.95km	55億円 (43億円)	18億円 (26億円)	67% (40%)	R6 (R1)	
			16億円 (18億円)	0.2億円 (6.7億円)	99% (63%)		
水系計			153億円 (144億円)	27億円 (75億円)	82% (48%)	R6 (R4)	
			18億円 (20億円)	0.3億円 (8.2億円)	98% (59%)		

事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	<p>平成30年7月豪雨などの全国で記録的な降雨による災害が頻発していることから、地元の河川改修に対する要望はさらに強まっている。</p> <p><b>【前回評価時点からの事業計画の変更概要】</b></p> <p>[別府川（上流工区）] 事業費・完成予定年度ともに変更なし。</p> <p>[別府川（下流工区）] 実施事業内容の精査等により事業費（3億円減）や事業期間（3年短縮）を変更。</p> <p>[水田川（下流工区）] 鉄道（山陽電鉄、新幹線）との近接工事について、鉄道構造物への影響を精査した結果、開削による施工が困難と判明したため、オープンシールド工法を採用したことにより、事業費を変更（12億円増）。</p> <p>また、用地交渉に時間を要したため、完成予定を5年間延長し、令和6（2024）年度までとする。</p>
	<p>[別府川（上流工区）] JR加古川線交差部を除き、令和元年度完了予定。 残るJR加古川線橋梁架替は、令和4（2022）年度完了予定。</p> <p>[別府川（下流工区）] 令和元（2019）年5月完了。</p> <p>[水田川（上流工区）] 全区間において用地取得が完了。</p> <p>&lt;鉄道交差部&gt; 2本の流路（本川水路、分水路）のうち本川水路を先行して整備している。本川水路の山陽電鉄交差部は平成29年度に完了。平成30（2018）年度から、山陽新幹線交差部を整備しており、令和2（2020）年度完了予定。</p> <p>&lt;鉄道交差部を除く区間&gt; 令和元年度までに、河道改修と橋梁架替に着手し、令和3（2021）年度完了予定。</p>
進捗状況	

評価視点		評価結果の説明									
審査会意見及び対応方針 (H26年度再評価)		【審査会意見】 継続妥当	【対応方針】 -								
(1) 必要性		<p>流域では平成 16(2004)年、平成 23(2011)年などに発生した洪水により、甚大な浸水被害が発生している。また、近年も平成 30 年 7 月豪雨など、全国で記録的な降雨による災害が頻発していることから、河川改修に対する要望も強く、事業の必要性は高い。</p> <p>【近年の主な浸水被害実績】</p> <table border="0"> <tr> <td>&lt;別府川&gt;</td> <td>&lt;水田川&gt;</td> </tr> <tr> <td>平成 16(2004)年 (床上 9 戸、床下 81 戸)</td> <td>平成 16(2004)年 (床上 7 戸、床下 33 戸)</td> </tr> <tr> <td>平成 21(2009)年 (床上 1 戸、床下 15 戸)</td> <td>平成 23(2011)年 (床上 12 戸、床下 29 戸)</td> </tr> <tr> <td>平成 23(2011)年 (床上 2 戸、床下 23 戸)</td> <td>平成 25(2013)年 (床下 22 戸)</td> </tr> </table>		<別府川>	<水田川>	平成 16(2004)年 (床上 9 戸、床下 81 戸)	平成 16(2004)年 (床上 7 戸、床下 33 戸)	平成 21(2009)年 (床上 1 戸、床下 15 戸)	平成 23(2011)年 (床上 12 戸、床下 29 戸)	平成 23(2011)年 (床上 2 戸、床下 23 戸)	平成 25(2013)年 (床下 22 戸)
<別府川>	<水田川>										
平成 16(2004)年 (床上 9 戸、床下 81 戸)	平成 16(2004)年 (床上 7 戸、床下 33 戸)										
平成 21(2009)年 (床上 1 戸、床下 15 戸)	平成 23(2011)年 (床上 12 戸、床下 29 戸)										
平成 23(2011)年 (床上 2 戸、床下 23 戸)	平成 25(2013)年 (床下 22 戸)										
(2) 有効性 ・ 効率性 (事業執行環境)		<p>① 費用便益比：B/C=9.0 (※河川整備計画における全ての事業による費用便益比)</p> <p>② 河川整備計画を平成16(2004)年11月に策定済。</p> <p>③ 地権者や自治体の協力により、用地取得は完了している。また、JR西日本と協定を締結し、既に工事着手しており、事業執行環境は整っている。</p> <p>④ 地元から早期事業完了の要望がある。</p>									
(3) 環境適合性		<p>流域では、ヤリタナゴやメダカなどの希少種が確認されており、整備にあたっては、みお筋を設けるなど、河床の平滑化は極力行わず、生物の生活環境の保全に努める。</p>									
(4) 優先性		<p>事業区間には人家連担区域や緊急輸送道路が含まれており、流下能力不足による浸水被害が想定されている。</p>									
の再評価結果	継続	理由	事業の必要性は、事業採択時と変わっておらず、また、用地取得が完了していることや、JRと協定を締結し、工事着手済みであることから、事業を継続する必要がある。								

# 加古川水系下流圏域 整備概要図

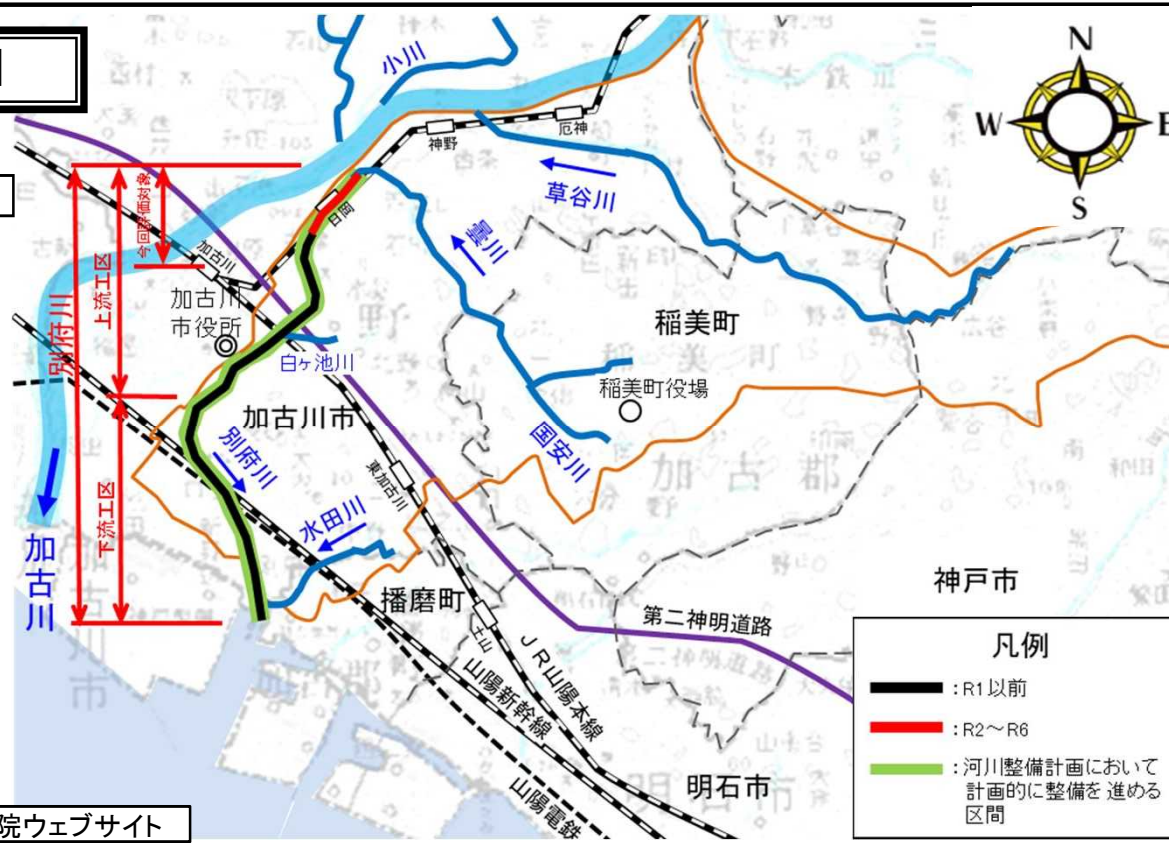


出典：国土地理院ウェブサイト

工区	全体	河川整備計画策定から 過去5年間以前 (H26以前)	過去5年間 (H27～R1)	今後5年間 (R2～R6)
別府川 (上流工区)	H16～R4年度 【事業費=81億円】 ・整備延長L=1,270m ・整備概要： 護岸、掘削、排水機場改築1基 JR橋梁架替1橋	H16～H26年度 【事業費=52億円】 ・護岸、掘削	【事業費=20億円】 ・護岸、掘削、排水機場改築 JR橋梁架替	【事業費=9億円】 ・護岸、掘削、 JR橋梁架替
		流下能力の向上	流下能力の向上	流下能力の向上
水田川 (上流工区)	H16～R6年度 【事業費=55億円】 ・整備延長L=950m ・整備概要： 護岸、掘削、 鉄道交差点部改修	H16～H26年度 【事業費=17億円】 ・護岸、掘削	【事業費=20億円】 ・護岸、掘削、 鉄道交差点部改修	【事業費=18億円】 ・護岸、掘削、 鉄道交差点部改修
		流下能力の向上	流下能力の向上	流下能力の向上

# 河川事業 一級河川加古川水系 別府川（継続：再評価〔第3回〕）

## 位置図



出典：国土地理院ウェブサイト

## 目的

浸水による家屋・人的被害の防止  
河川整備計画(H16)に基づく流下能力不足の解消

## 事業概要

事業区間：加古川市加古川町美乃利  
～神野町西之山  
総事業費：81億円  
内用地補償費：2.0億円  
事業期間：H16～R4  
事業概要：河道改修、排水機場改築、  
JR橋梁架替  
延長：1,270m  
費用便益比B/C：9.0※  
(※河川整備計画における全ての事業による費用便益比)

## 浸水実績

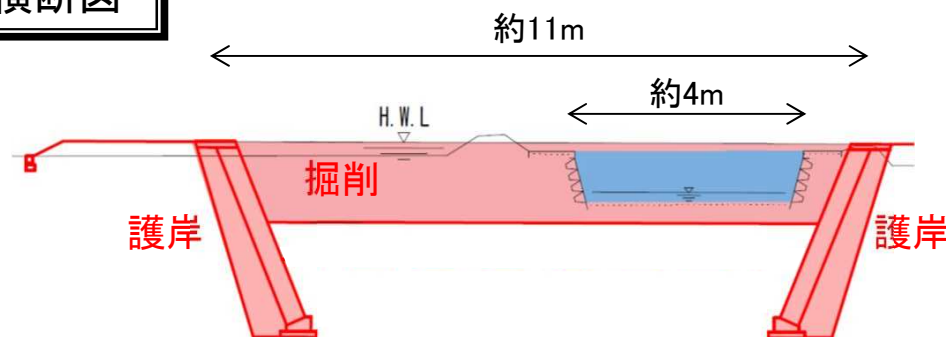
浸水実績（昭和58年台風第10号）



浸水実績（平成23年台風第12号）



## 横断図



# 事業進捗平面図



# 現況写真

①完成区間(日岡駅北側)



②完成区間(最上流部)



③残事業区間(JR橋梁交差部)



④残事業区間(JR橋梁交差部)



## 浸水実績(別府川流域)

名称	浸水家屋
S58台風第10号	513戸
H16台風第23号	90戸
H21.7豪雨	16戸
H23台風第12号	25戸

## 凡例

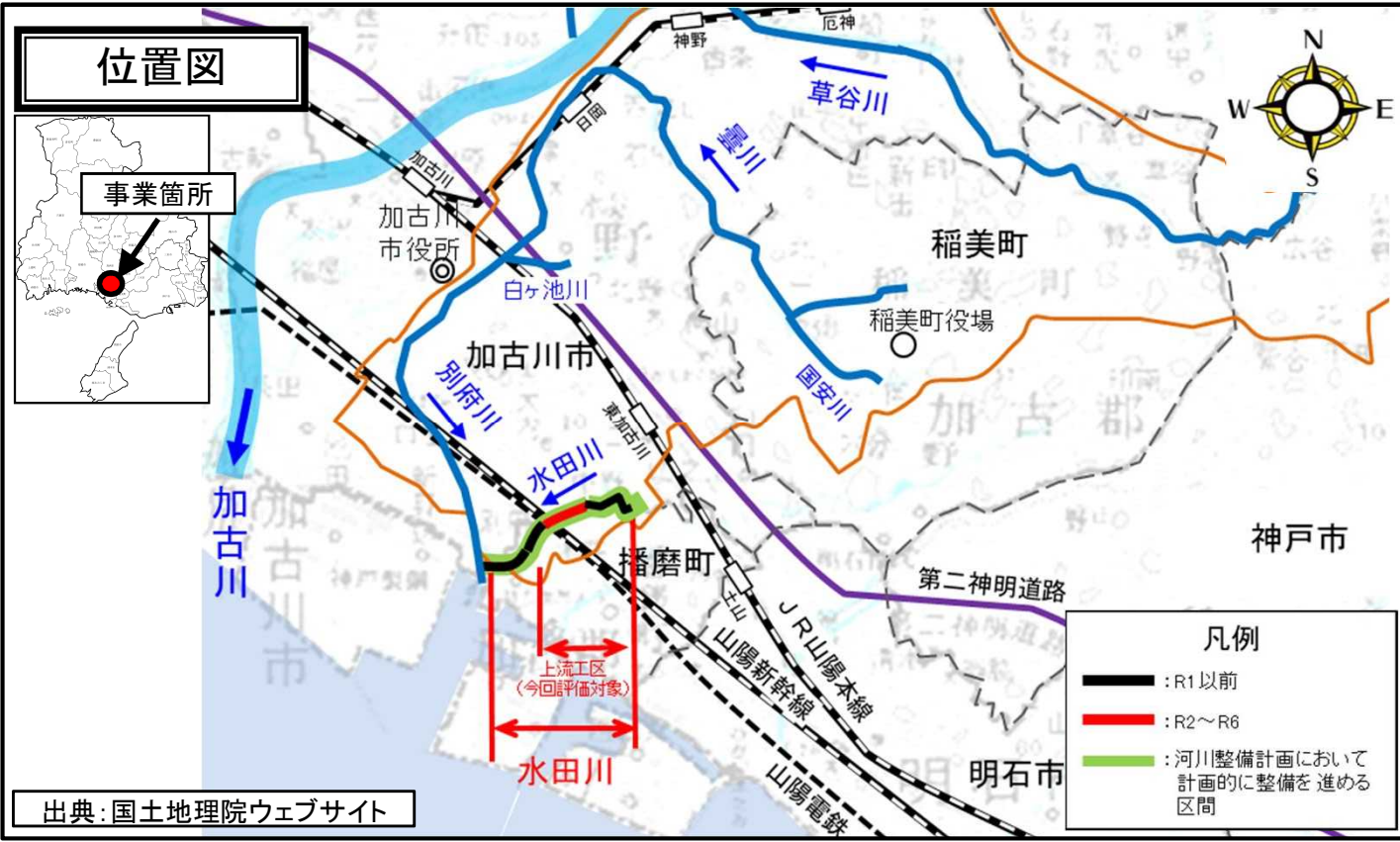
- : H26以前
- : H27～R1
- : R2～R4
- : JR橋梁
- : 浸水範囲 (S58台風第10号)

## 工程表

- : 前回計画
- : 実施・計画

河川	種別	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
別府川 (上流工区)	用地買収	[Blue bar]														
		[Red bar]														
	河道改修	[Blue bar]		[Red bar]		[Blue bar]		[Red bar]		[Blue bar]		[Red bar]		[Blue bar]		
		[Red bar]		[Blue bar]		[Red bar]		[Blue bar]		[Red bar]		[Blue bar]		[Red bar]		
橋梁架替	市道橋															
	JR橋梁															
	市道橋															
	JR橋梁															

# 河川事業 一級河川加古川水系水田川（継続：再評価〔第3回〕）



出典：国土地理院ウェブサイト

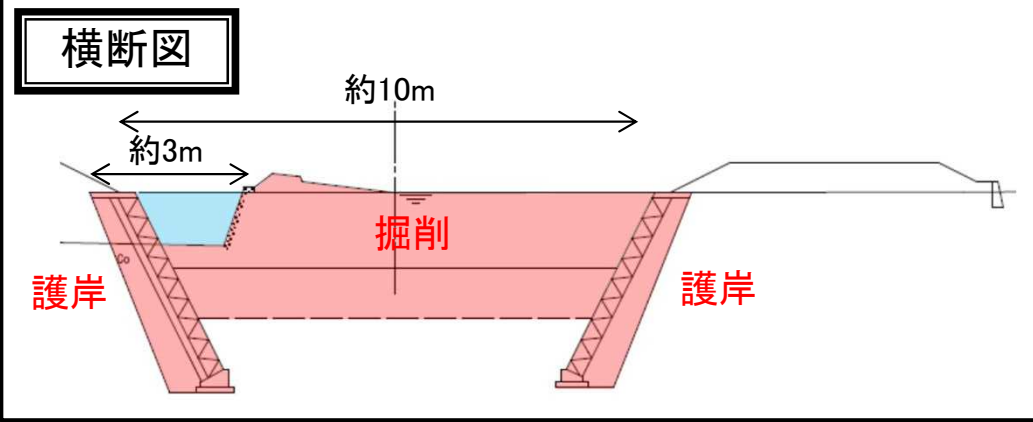
## 目的

浸水による家屋・人的被害の防止  
河川整備計画(H16)に基づく流下能力不足の解消

## 事業概要

事業区間：加古郡播磨町北本荘  
～加古川市平岡町中野  
総事業費：55億円  
内用地補償費：16億円  
事業期間：H16～R6  
事業概要：河道改修  
延長：950m  
費用便益比B/C：9.0※  
(※河川整備計画における全ての事業による費用便益比)

## 浸水実績



浸水実績（平成16年台風第23号）



浸水実績（平成23年台風第12号）







# 事業の有効性・効率性

## (1) 費用対効果

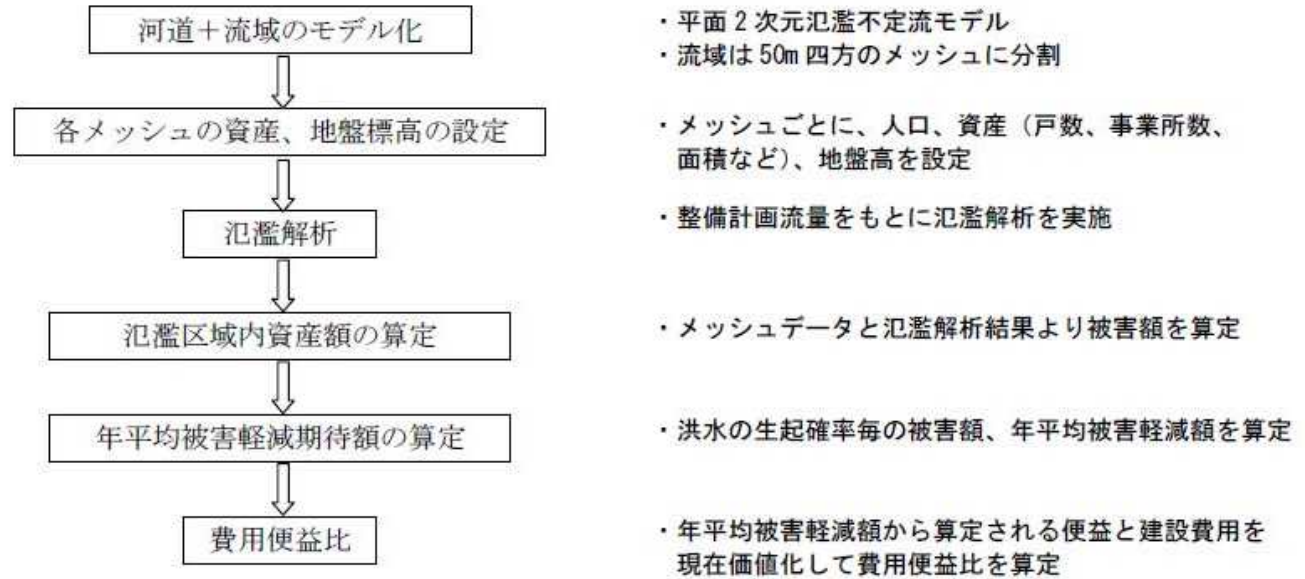
### ① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等)</li> <li>・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用</li> </ul>

### 便益(B)の項目

1) 便益 = 治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化被害額  
 = 一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等)  
 + 農産物被害 + 公共土木施設等被害 + 営業停止被害 + 応急対策費用

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化



### ② 費用便益比(B/C)算出根拠

B(便益)		C(費用)			B/C
便益額	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
4,738億円	計画規模の降雨に対して、浸水面積740ha、浸水10,331世帯の解消	525億円	478億円	47億円	9.0

## (2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等
社会経済活動等の安定	人的被害の軽減	○ ・浸水区域内人口26,168人、災害要援護者8,218人を解消 ・最大孤立者2,456人(避難率0%)、1,474人(避難率40%)491人(避難率80%)を解消
	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減	○ ・主要地方道加古川小野線等の交通途絶を解消(交通量17,822台) ・JR加古川線の交通途絶を解消(利用者数661人)
	医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減	○ ・日岡交番の浸水を解消
	水害廃棄物の発生の軽減	○ ・水害廃棄物2,559t、処理費用68,828万円の解消
魅力ある河川空間の創造	多様な生物の生活環境の保全・再生・創出	○ ・河床に滯筋を整備することにより、平常時においても多様で変化のある流れを確保し、植生、生物の生息環境に配慮
	親水空間の整備・景観への配慮	○ ・階段や緩傾斜護岸の整備により配慮する。

加-10

## (3) 地域からの要望状況等

## 参考：事業の変遷

<p>要望状況等</p>	<p>①加古川市では、現在市民約5万世帯を会員とする「治水対策促進会」が昭和29年に発足されるなど、古くから地域住民の治水に対する意識が高く、毎年、治水対策の促進について強い要望が出されている。</p> <p>②別府川については、平成16年台風第23号や平成23年台風第12号・15号などにより度重なる浸水被害が発生していることから、一層の事業推進が強く望まれている。</p> <p>③水田川については、加古川市と播磨町で「水田川改修促進期成同盟会」を設立しており、毎年事業推進について強い要望が出されている。</p>	<p>&lt;別府川&gt; 昭和58年：広域河川改修事業着手(上流工区) 平成16年：加古川水系下流圏域河川整備計画策定 平成21年：継続事業評価(第1回) 平成26年：継続事業評価(第2回)</p> <p>&lt;水田川&gt; 平成14年：新規事業評価 平成15年：広域河川改修事業着手 平成16年：加古川水系下流圏域河川整備計画策定 平成24年：継続事業評価(第1回) 平成26年：継続事業評価(第2回)</p>
--------------	---	--